

経済・金融 フラッシュ

【9月米個人所得・消費支出】

個人所得は予想比下振れも、個人消費は予想を上回る伸び

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:個人消費は名目、実質ともに前月、予想を上回る

10月31日、米商務省の経済分析局（BEA）は9月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得（名目値）は、前月比+0.3%（前月：+0.2%）となり前月から伸びが加速したものの、市場予想（Bloomberg集計の中央値、以下同様）の+0.4%は下回った。一方、個人消費支出（名目値）は、前月比+0.5%（前月改定値：▲0.1%）と前月改定値を上回ったほか、市場予想（+0.4%）も上回った（図表1）。価格変動の影響を除いた実質個人消費支出は、前月比+0.3%（前月改定値：▲0.2%）と前月改定値、市場予想（+0.2%）ともに上回った（図表5）。貯蓄率¹は5.7%（前月改定値：5.8%）と前月から低下した。

価格指数は、総合指数が前月比+0.2（前月改定値：+0.2%）と前月改定値、市場予想（+0.2%）に一致した。また、変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は、前月比+0.1%（前月値：+0.2%）と前月から伸びが鈍化、市場予想（+0.1%）には一致した（図表6）。なお、前年同月比では、総合指数が+1.2%（前月：+1.0%）、コア指数が+1.7%（前月：+1.7%）となり、コア指数は前月に一致したものの、総合指数は前月から伸びが加速した（図表7）。

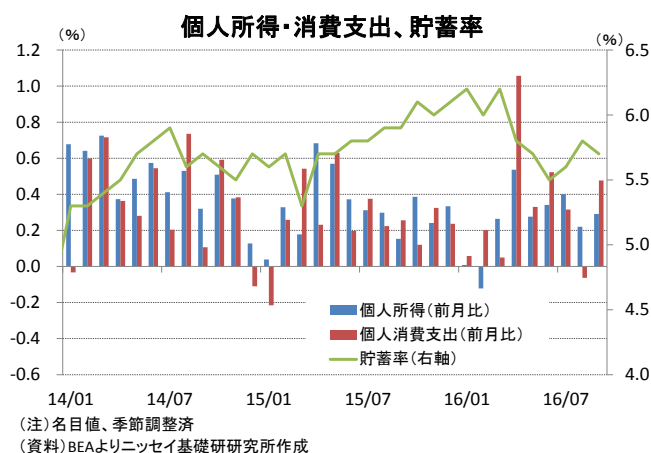
2. 結果の評価:個人消費は16年6月以来の伸び

名目個人消費（前月比）は、8月が15年1月以来となるマイナスに転じるなど、7月、8月と冴えない状況となっていたが、9月が16年6月以来の伸びに加速したことで、消費の持ち直しが確認された（図表1）。

また、貯蓄率も3ヵ月ぶりに低下したことから、所得対比でみた消費も回復していることが確認できた。

もともと、7-9月期の個人消費（3ヶ月移動平均、3ヶ月前比）は、+3.6%（4-6月期:+6.4%）

（図表1）



¹ 可処分所得に対する貯蓄（可処分所得－個人支出）の比率。

と前期から大幅に鈍化、所得の伸び(+3.9%)も下回っており、7-9月期の消費はやや期待外れに終わったと言える。

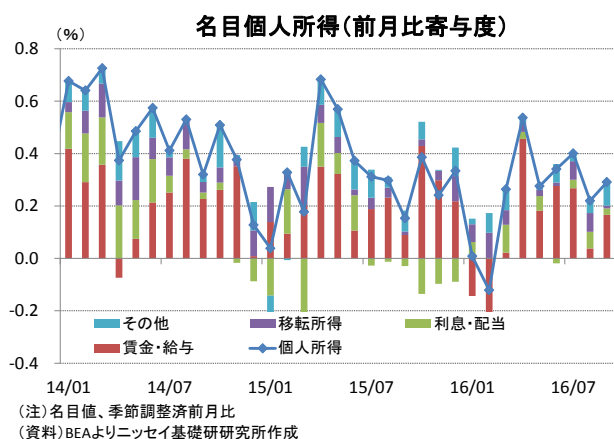
物価(前年同月比)は、コア指数が安定する一方、エネルギー価格の持ち直しもあり総合指数が7月以降、2ヵ月連続で上昇しており、物価上昇圧力には緩やかながら高まりがみられる。もっとも、総合指数、コア指数ともにFRBの物価目標(2%)を下回る状況が持続している。

3. 所得動向:賃金・給与の伸びが加速

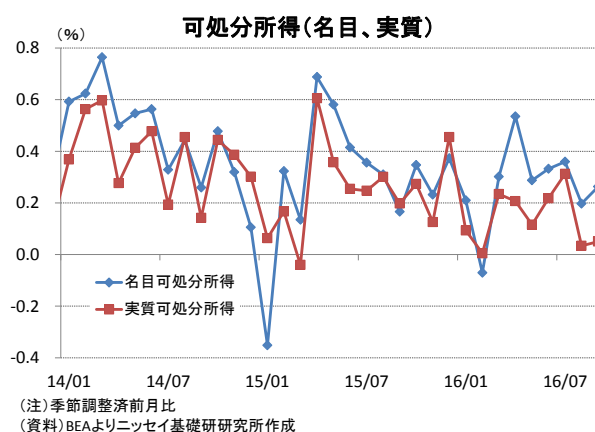
個人所得の内訳をみると、賃金・給与が前月比+0.3%(前月:+0.1%)と16年3月(前月比横這い)以来の低調な伸びとなった前月から伸びが加速した。労働需給の改善が持続しているため、今後も賃金・給与の増加基調は続こう。一方、利息・配当収入は+0.2%(前月:+0.4%)とこちらは前月から伸びが鈍化した(図表2)。

個人所得から社会保障支出や税負担などを除いた可処分所得(前月比)は、名目値が+0.3%(前月:+0.2%)と前月から伸びが加速した一方、価格変動の影響を除いた実質ベースは前月比でほぼ横這い(前月:横這い)と2ヵ月連続で横這いの水準に留まった(図表3)。

(図表2)



(図表3)



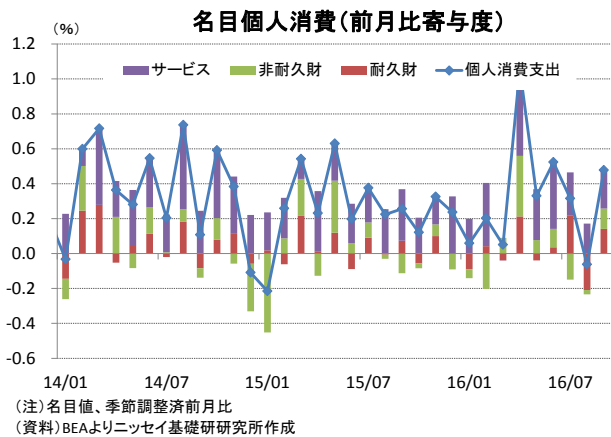
4. 消費動向:自動車をはじめ財消費が好調

名目個人消費(前月比)は、サービス消費が前月比+0.3%(前月:+0.3%)と前月から同程度の伸びに留まる一方、財消費が+0.8%(前月:▲0.7%)とマイナスとなった前月の反動もあり、大幅に伸びが加速した(図表4)。財消費では、耐久財+1.3%(前月:▲1.9%)、非耐久財+0.6%(前月:▲0.1%)ともにプラスに転じた。耐久財では自動車・自動車部品が+3.3%(前月:▲4.6%)と前月から大幅な伸びとなったほか、家具・家電も+0.5%(前月:▲0.7%)と前月からプラスに転じた。一方、非耐久財はガソリン・エネルギー関連が+5.1%(前月:▲2.0%)と前月のマイナスから大幅なプラスに転じた。

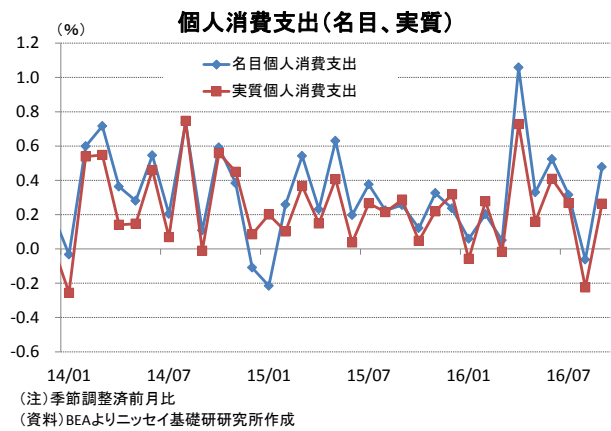
サービス消費は、娯楽サービスが+1.3%(前月:▲1.6%)とプラスに転じたほか、医療サービスも+0.4%(前月:+0.3%)と小幅ながら前月から伸びが加速したものの、住宅・公共料金が▲0.2%

(前月比：+0.7%) とマイナスに転じたことが響いた。

(図表 4)



(図表 5)



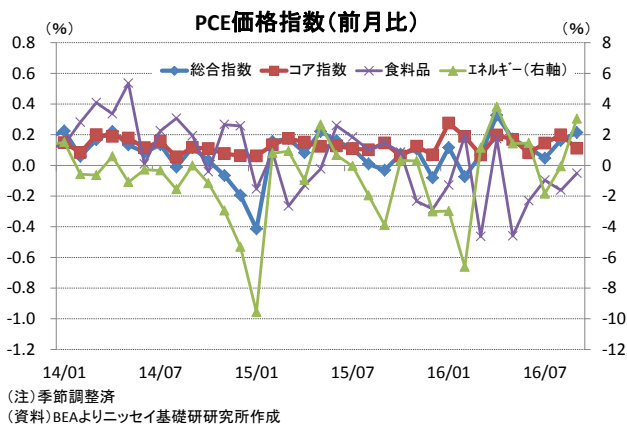
5. 価格指数: エネルギー価格には持ち直しの動き

価格指数(前月比)の内訳をみると、エネルギー価格指数が+3.0%(前月:▲0.1%)と上昇が顕著となった(図表6)。一方、食料品価格指数は▲0.1%(前月:▲0.2%)と、こちらは5ヵ月連続でマイナスとなった。

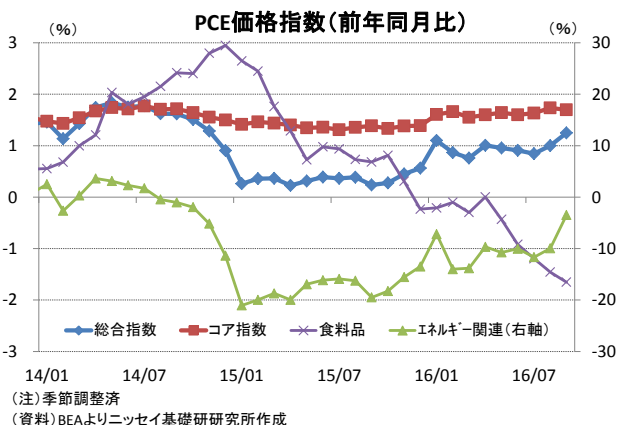
前年同月比では、エネルギー価格指数が▲3.5%(前月:▲10.0%)と依然としてマイナスが続いているものの、2ヵ月連続でマイナス幅が縮小した(図表7)。一方、食料品価格指数は、▲1.7%(前月:▲1.4%)と、こちらは前月からマイナス幅が拡大した

原油価格は、昨年5月の60ドルをピークに今年2月の30ドル割れまで低下しているため、現水準(40ドル台後半)で今後推移する場合には、前年同月比でみたエネルギー価格は物価を押し上げる方向に転じよう。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。